

第1回年会及び設立総会について

行事幹事 下村 理

(無機材質研究所)



第1回年会及び設立総会が4月23日(土)に東京信濃町の野口英世記念会館で145名の参会者を得て開かれました。今回は第1回の年会であり、日本放射光学会の最初の行事でもあるので、通常の年會に講演會の色彩を加味して、放射光学のカバーする放射光の発生から利用に至るまでの領域を改めて會員の方に認識して頂くことを目的とした記念講演會を企画しました。プログラムを組むに当たって、光源、ビームライン・光学系、VUV・SX領域での利用研究、硬X線領域での利用研究、基礎研究と応用研究のように分類し、行事委員会で検討した結果今回は次に示す8件の講演をお願いしました。

- 放射光源、富家 和雄(高エネ研放射光)、
- 真空紫外ビームライン 渡辺 誠(分子研)、
- 高輝度・高強度X線ビームライン 松下 正(高エネ研放射光)、
- 有機・生体物質の構造解析 飯高 洋一(帝京大)、
- X線領域での研究の現状と将来 菊田 惺志(東大工)、
- 放射光を利用した応用研究—半導体素子の開発のために— 松井 純爾(NEC 基礎研)、
- 原子分子の内殻電子過程 佐々木泰三、
- 放射光による固体分光 石井武比古(東大物性研)。

今回の講師には、いままで放射光に直接携わってこられ、又、その分野の活動について見渡せる方をお願いし、今までの経験に基づいてその現状とこれからの放射光が各分野でどの様に発展し、利用されて行く

かについて触れて頂くようお願いしました。講師の方には御多忙中にも関わらず丁寧なレビューや最新の成果の紹介あるいは放射光に対しての鋭い指摘などをして頂き感謝しております。この機会に多くの方がより深く放射光に理解と興味を示していただけたのではないかと考えております。なお、今回十分に紹介できなかった分野については次の年會の特別講演やシンポジウムなどで取り上げていく予定です。

記念講演會に続いて設立総會が開かれ、定款の承認や年間予定についての討論が行なわれ承認されました(詳細は別項を参照して下さい)。総會の後、会場を隣のレストラン「ガーナ」に移して70名近くの方が参加して懇親會が開かれ、夜の更けるまで歓談が続き盛會の内にお開きとなりました。

